

みのひろし後援会だより

編集・発行/みのひろし後援会 会長 岩崎正司 (事務所 山県郡北広島町南方 2830)
電話 0826-72-2618 きたひろネット 050-5812-4661

対話によって世界から 戦争をなくし非核化の実現を

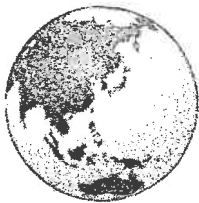
後援会会長 岩崎 正司

韓国の文在寅(ムンジェイン)大統領は、筋金入りの対話論者と聞いている。昨年韓国での平昌オリンピックを契機に、北朝鮮の金正恩(キムジョンウン)労働党委員長との対話で、南北会談を実現し、南北統一選手団が結成され、出場させた。以後、何回かの金正恩委員長との対話によって、アメリカのトランプ大統領との米朝首脳会談にまで実現させ、北朝鮮の非核化まで大筋合意させた。

一時は、「日本列島、いや北広島町の空をも核を抱えた北朝鮮のミサイルが飛行するのでは」と、恐怖を感じたが、当面の緊張は緩和された。しかし、あの金正恩委員長だ、北朝鮮の完全非核化までには時間を要することだろう。

文在寅大統領は、「平和のためにできることはすべてやる」と明言しているそうだが、韓国のみでなく、世界から戦争を回避する努力も願いたい。

我が国は八月十五日に、戦争が終わって七十三回目の終戦記念日を迎えた。国民の多くが、戦争を知らない世代となりつつある。教訓を風化させることなく、若い世代に語り継いでゆくことこそ、我々の使命であろう。

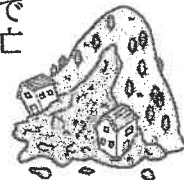


災害に強いまちづくり

町長 箕野 博司

今年七月の西日本豪雨

災害では、亡くなった人が十五府県で二百人以上という大きな被害が発生しました。そのうち広島県で亡くなられた方が約半数です。ご冥福をお祈りしますと共に、被災された方々に心よりお見舞い申しあげます。



本町では、昨年七月の豪雨災害に続いての被災となりました。昨年ほどの被害ではありませんでしたが、それでも小さいものも含めると、三百ヶ所程度の被害が発生しました。二年続いている線状降水帯による豪雨災害です。線状降水帯と台風や梅雨前線などとの関係はよく分かりませんが、四年前の広島市豪雨災害も記憶に新しいところです。

もはや毎年と言ってもおかしくない気象状況になってきているかと覚悟しなければならぬのかもしれないかもしれません。広島県は土砂災害危険箇所が全国で一番多い県です。広島県のホームページなどで災害危険箇所や防災・減災情報を知ることができます。とは言え、災害が

発生した時、一番大切なのは、どう行動し命を守るか各自の判断と「自助」の行動、日頃からの備えです。「自助・共助・公助」という言葉がありますが、中でも一番重要なのは「自助」です。大きな災害になればなるほど多くの箇所が被害が発生し、「公助」はとても間に合いません。

次に「共助」が大きく力を発揮します。「〇〇さんの所は老人が一人で・・・」「この水路の水かさがいっつもは△△じゃけ・・・」と、地域の状況を一番よく知っている皆で、声を掛け合い助け合うことが減災に大切だと、今回の災害ニュースを見ていてもよくわかりました。

こうした状況の中で、「避難所というても堤が決壊したら危ないけえ、□□しよう」など、具体的に地域の方々と、災害の種類によりどういう危険があり、発災後どう行動したら良いかを話し合っておく必要があります。そのためには、まず自主防災組織づくり、防災リーダーの育成などが急がれます。研修会や訓練を開催するなどして、防災・減災への取り組みを充実していかなければなりません。

町民の皆さんと共に、力を合わせて、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

支部だより

箕野夫妻と竜頭山へ

竜頭山森の案内人 竹内昌晴

ササユリの咲く六月中旬、箕野町長夫妻を竜頭山へ案内しました。これは、以前から私が提案していたことです。久々に土曜日の午前中に時間が取れたとのことでした。

当日は、私の仲間で野鳥に詳しい斉藤さんと、山野草に詳しい吉野さんにも同行をお願いしました。

天気も快晴で絶好の登山日和。麓の登山口から瀧見コースへ。野鳥のオオルリ、キビタキ、サンコウチョウなどが姿を見せてくれました。キンラン、ギンランの花は終わっていましたが、清楚な町花のササユリが迎えてくれました。モリアオガエルの産卵場所にも出合いました。一丁毎の龍頭観音地藏の案内で、落差三十六メートルの駒ヶ瀧に到着。その昔、絵師の岡眠山も訪れて、都志見往来日記を記しています。

滝の馬場を過ぎると、急登が始まります。奥さんは、学生時代長距離が得意だったそうで、大丈

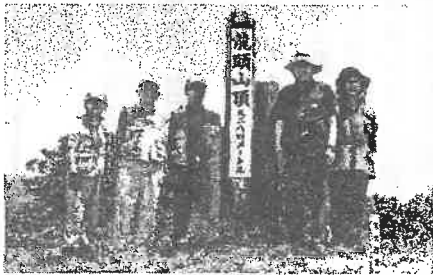
夫のようでしたが、町長さんは、ちよつときつそうでした。

やがて、前龍頭に到着。ここまでくると、瀬戸内海が見えます。眼下にどんぐり村など豊平の里が箱庭のように広がります。

ここからは稜線歩きです。ブナの林も現れます。最後の急登階段を上りきると、928メートルの頂上です。360度の展望が広がります。広島湾・宮島・山口県境の山々・芸北の山々・寒曳山：ほんまに最高です。

間食を取り、記念写真を撮って、下山は前龍頭林道へ。途中、満開のヤマアジサイ、コアジサイの群落に出合い、歓声が上がりました。

町長様、奥様、本当にお疲れ様でした。たまには、町政を休んでリフレッシュしていただくのも良いのではあります。私たちがとても楽しかったです。



反戦・平和に思いをよせて

本地支部 清水貞之

今年も八月十五日、平成最後の「終戦の日」を迎えました。今から七十三年前、当時の私たち本地国民学校六年生は、約七十名でそのうち集団疎開児童が十名、縁故疎開児童が十六名おられました。

「欲しがりません、勝つまでは」に鞭打たれながら、ひもじい思いを胸に、子ども心にも歯を喰いしばり頑張った七十三年前の出来事が、ついこの間のように蘇ってきます。

とりわけ、集団疎開で専教寺と浄楽寺に来ておられた広島市の神崎国民学校の皆様は約半年。これまで歩んできた八十数年の間では、ほんの一コマの短い期間ではあります。優しい父・母の元を離れてお寺で過ごされ、私達が想像すらできない深い悲しい思いや辛い出来事、また言い知れぬ怒り等、数限りなくあったと思います。

戦争末期、人に対する優しさとか愛おしさ・人を思いやる心など、当時の学校では微塵も教えてもらった記憶がありません。校庭では、藁人形を敵兵に見立て、竹槍で突き殺したり木刀

で切り殺したりする訓練の明け暮れで、米英兵を「鬼畜米英」と呼ぶものすごい時代でした。従って、子供の時とは言え、疎開児童の皆様に対して、今風に言えば「いじめ」等も随分あったのではないかと思ひ、大変心が痛む気がします。

今私の記憶に残っているのは、私達田舎者の子どもと違って、服装も整ってあか抜けしていたことや、神崎校から持ち込まれた運動用具、例えば県道の防具や木刀・跳び箱等に「神崎国民学校」と焼き印が克明に押しあがり、とても立派だった事など、断片的なことしか憶えていません。が、何故か一番大切な友達として一緒に連れ立って遊んだという記憶も不思議と残っています。しかし、こうしたことには拘らず、七十数年経った今でも、還暦以来二十数年回っている一泊二日(中国地方はもとより四国、九州、京都方面の名所・旧跡・名湯めぐり等)の小学校のクラス会には、集団疎開や縁故疎開であった数名の方々が広島や呉、遠くは横浜方面からも参加され、旧交を温めています。

戦中の悲惨な時代の一期一会ではありましたが、今こうして年に一度会って楽しいクラス会が出来るのも、今が平和な時代

だからこそと思います。
愛しい子や孫、夫を再び戦場に送ったり、集団疎開させたりするような時代にならないこと、また、してはならないことを固く誓って、筆をおきます。



野球好きの私

蔵迫支部 國田卓男

今まで経験したことのない異常象が続いています。この度、岩崎会長様より投稿の依頼を受け、乱筆ながら、私の思いを表したいと思えます。

私は、野球が好きで好きでたまりません。特に母校新庄高校の野球の試合。練習の追っかけをしているところです。この年齢になっても！

学園創立は、来年五月で百十周年に亘るそうです。野球部創設は昭和三年。旧制中学一回生からだと聞いています。往時、田舎の学校は弱く、記録によると、昭和八年(朝日新聞)広島商業高校と対戦、四十七対零で負けたとのこと。ちなみに、広商の選手には、元南海ホークス監督の鶴岡一人氏らもおられたそうです。その時の引率の先生、元学園理事長の宮庄栄三氏でした。試合が終わって、先生が選手

皆にラムネを買って飲ませてく
ださつたと言われています。

この伝説を私の中学校の時の恩師、旧姓荒木照世氏が私の野球好きを知り、一句詠んでくださいました。「師の見とむ、四十七対零野球、泣くなラムネ買ってやるけえ」。今でも思い出し、懐かしく振り返って楽しませて頂いています。その頃ラムネなどはなかなか口に含めなかった時代だったと推測されます。

また、その時の選手の一一人に、蔵迫の上田定氏がおられたそうです。ご存知かも知れませんが、上田定氏は、第二次世界大戦の始まりのハワイ真珠湾攻撃の時の戦死者九名のうちの一人、九軍神と言われた一人だそうです。七十数年経過した今、改めて哀悼の意を表したいと思えます。

野球部創設から今年で、九十年も経過しました。その間、諸般の事情により、硬式より軟式の時代もありました。昭和五十年、再び硬式野球部も復活し、徐々に、注目されるようになり、今日では、プロ野球選手も輩出し、県下でも強豪校と言われるようになりました。また今年、軟式野球部も全国大会出場を果たしました。これもひとえに箕野町長さんはじめ、多くの皆様の物心両面の協力の賜物と感謝し、高

校野球を楽しんでいます。

江戸時代後期、米沢藩主上杉鷹山曰く「為せば成る、成さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」正にその通りと思えます。

少子高齢化社会の真っ只中、北広島町内に三校の高等学校があります。広島新庄高校、千代田高校、加計高校芸北分校、それぞれの特長を持っています。これを活かし、今後地域社会に役立つ人材を数多く育ててくださることを心から願っています。

ピンチの後には必ずチャンスが来ると信じています。先の先まで見据えた政治を望み、期待をし、応援したいと思っています。



「箕野博司町長、頑張れ！」

農業は個人でやるより
法人組織でやる方が良い
本地別所千坊 吉川康昭

農業の現況をみますと、農業従事者の高齢化と労働力不足、PPPやETAが締結され、農産物の自由化による販売価格の低下、農業用機械の高額化、農薬や肥料など資材の高騰、有害鳥獣による農産物被害の増加などがあります。

農業を取り巻く環境は、大変厳しい状況になっており、これらが起因して、耕作放棄地が増加しています。
本地別所千坊地区では、十五年前から将来に備えて、農業法人を設立し、昨年の課題を今年も農業技術が向上するように運営しています。

- 農業法人にする利点
- ・ 農業の担い手ができ、耕作放棄地がなくなっている
 - ・ 機械オペレーター熟練による農作業の効率化
 - ・ 施設や機械の共同利用による生産原価低減
 - ・ 法人化により、人材活用、農産物販売、農機購入資金積立等が計画でき、有利な経営が展開できる
 - ・ 経営面積に比例する農政の補助事業が大きい
- などがあります。

大きく儲かる農業にはなっていないかもしれませんが、ちよいと黒字であれば、法人経営を継続できます。
これからの農業を如何しようかと苦悩されている方は、同じ悩みを持つ地域の人たちとまとまって法人組織をつくることをお勧めします。



みのひろし後援会

支部研修会

芸北支部 11月3日(土) 芸北文化ホール

豊平支部 11月24日(土) どんぐり荘

大朝支部 } 12月1日(土) JA 広島北部
千代田支部 } 千代田支店3階

いずれも 14:00~16:00

演題「夢への挑戦！」

アジア大会 3つの金メダルを持ち帰った
「どんぐり北広島」ソフトテニスクラブ

講師

中本裕二 監督

皆様、お誘い合わせてぜひ、ご来場ください。